

えがお



令和8年
1月23日
No.7



伊那市よりよい教育環境推進連絡会



伊那公民館「おやじの会」 人権同和教育講演会 「子どもが幸せになるためのポイント」

11/26



伊那市公民館「おやじの会」では、南信教育事務所学びの共創課指導主事の南波秀治先生を講師にお迎えして、人権同和教育講演会を行いました。

前半は自己紹介やグループ作りをしてから、ワークショップをしました。まず、右の文章の中に、人権がいくつあるか探しました。答えは12もあり、現在では当たり前だと思っていることが、人権として生活の中にあふれていることがわかりました。次に、5円玉の表裏のデザインを自分の記憶を頼りに描いてみました。身近なことでも意識していないと分かりません。人権も同じだということです。

後半は、子どもの人権について学びました。

大人の生き方を見て、子どもは将来に希望を持ったり失望したりするから、「大人が楽しく幸せであること、魅力的な大人であること。」が大事だそうです。また「子どもが安心して、自分らしくいられる環境」とは、「反対意見も歓迎される、失敗は挑戦の結果」などの状態だと教えていただきました。最後に、奈良少年刑務所で始まった詩の授業の資料から、子どもにとって「認められること」、「褒められること」が大切だということを改めて確かめることができました。楽しみながら考え合いながら、多くのことを学んだ講演会でした。

【とある日の私・・・】

朝、布団から起きて、朝食をとりました。身支度を整え、事務所のある伊那市へ車で移動しました。事務所でメールの確認や、やり取りをし、10時に開かれる講座で話す内容を練りました。

その後、地区で開かれる人権講座のため公民館に移動しました。公民館には地区の人が大勢集まっていました。私は、人権課題について思うことを地域の皆さんの前で語り、地域の皆さんからも意見を聞くことができました。

一日の仕事を終え、家に帰りました。



講師の南波秀治先生



自己紹介ゲームから、4つのグループをつくっています。



示された文章の中にどんな人権があるか、グループで考えました。



詩の授業の資料を読みました。



西箕輪小学校

「学習支援の日」

12/2



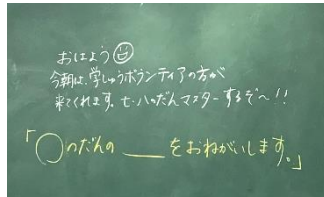
西箕輪小学校の学習支援は、地域の方（元育成会役員、元教員・保育士）、保護者、信大生の皆さん等、多くの方々にかかわっていただいています。この日は、16人の方々が、朝の活動の時間に1～3年生、1時間目に4～6年生の丸つけや学習支援をしました。

各教室に担任の先生と学習支援の先生で合わせて3、4人の先生がいて、子どもたちの学習を手厚くサポートしています。さらに子どもたち同士でも学び合いをしていて、途切れない学習活動が成立しています。また、担任の先生方は、学年に応じて子どもたちがどのように学習支援の先生に言葉をかけて教えてもらうのが良いのか、板書してあったりプロジェクターで投影してあったりして、細かなところまで指導が行われていました。

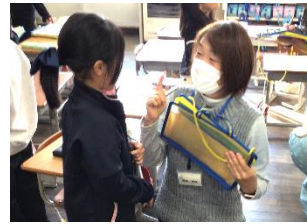
4～6年生の教材は、長野県総合教育センターのホームページから自由にダウンロードできる、知識・技能を問う「クリア問題」や思考・判断・表現を問う「チャレンジ問題」が使われ、充実した学習内容で進められていました。そういった学習環境作りを通して、どの教室でも意欲的に学習する子どもたちと、生き生きと子どもたちと関わっていただいている学習支援の先生方の姿がありました。



1年生の ○つけ



担任の先生が、めあてとお願いの仕方を書いてくれてありました。



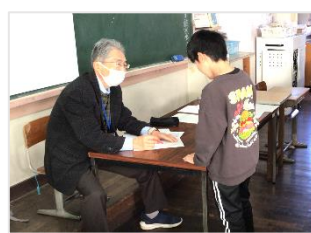
2年生の九九の勉強



3年生の ○つけ



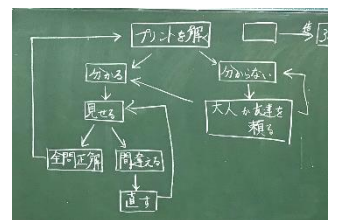
4年生の学習支援



5年生の学習支援



6年生の学習支援



担任の先生が、学習の流れを丁寧に書いてくれてありました。



高遠小学校 「習字の先生は高校生」 12/8・12



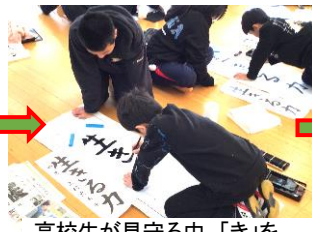
高遠小学校の皆さんは、高遠高校芸術文化コース書道専攻の皆さんと、書き初めの練習をしました。8日には4年生が「生きる力」、12日には5年生が「正月の朝」、6年生が「強い信念」という文字を練習しました。高遠高校の生徒が、小学生に習字を教えるという交流は、始まってから15年程にもなるそうです。

まず、お手本を見ながら自分で書いてみて、「もう少しこうしたら、うまくなるかな。」というところを見つけ、高校生に伝えます。次に高遠高校の小林先生から、一文字ずつポイントを説明してもらってから、半紙に一文字ずつ書きました。四文字練習してから、いよいよ書き初め用の紙に書きました。書き終わった文字を見ながら、高校生のアドバイスを受け、その後書き初め用の紙に何枚か書きました。5年生は、学習が終わってからの休み時間に、高校生といっしょに鬼ごっこを楽しみました。

小学生にとっては、児童2人に高校生1人がついて教えてもらえて、高校生にとっては、異年齢の子どもたちとかかわる貴重な経験となり、お互いに有意義な交流となっていました。



高遠高校の小林先生が「き」のポイントを説明します。



高校生が見守る中、「き」を書く4年生



書き終わった「き」について、高校生がアドバイスをします。



お手本を見ながら、高校生のアドバイスを聞く5年生



この時間で一番良い作品を小林先生に提出



休み時間には、鬼ごっこをして、あそびました。



真剣に書く6年生を見守る高校生



書き終わって、楽しくお話

西春近公民館講演会

12/12

「暮らしに生きる方言」 ～上伊那の方言を中心に～



講師の井野憲司先生



大勢の地域の方が参加しました。

西春近公民館で、2012年～2024年3月まで伊那西高等学校の校長先生をされていた出野憲司（いでのけんじ）先生をお迎えして、上伊那の方言について講演会が行われました。出野先生は、信濃毎日新聞社刊の「長野県方言辞典」の編集委員長を務められ、「残したい方言」などの著書もあります。

はじめに、「オル（いる）」、「イクラ（行くだろう）」など、日頃使っていそうな方言についてみんなで振り返ってから、昭和26年に信濃毎日新聞社が収録した飯田市と伊那里村（現伊那市長谷）の婦人の会話音声を聞きました。続いて、北安曇郡～伊那市までの信州中部方言と宮田村～下伊那郡・木曾郡の信州南部方言を比べて、西春近が境界線になっているという興味深いお話がありました。言葉は変化するものですが、交流がないと独自に変化して方言となっていくということです。

NHKが2000年に実施した「21世紀に残したいふるさとのことば」アンケートでは、長野県の回答数が圧倒的に多く、全国1位を記録したのだそうです。そのトップ3は「ごしたい」、「ずく」、「もうらしい」でした。出野先生は校長時代に、「やっぱり、ズク出して、マテ（丁寧）にやれば、アンジャネー（案じることはない）」と言って、職員を元気づけておられたそうです。

最後に、馬瀬良雄氏の「信州のことば 21世紀の文化遺産」から、「方言はたやすく保存されるものではない。簡単に復活するものでもない。方言は地域文化の一形態であるから、しっかりした支えがないと難しい。」という言葉を紹介され、方言が大切にしたい地域の言語文化であることをお話されました。私たちも改めて方言に親しみが湧き、これからも大切にしたい気持ちになった講演会でした。

西箕輪公民館 人権同和教育講座 12/13

「アイヌ民族の誇り」～飯田線の開通につくした川村カネト～



西箕輪公民館で、「こころのレールをつないで 川村カネトと飯田線誕生物語」という映画の上映と『川村カネト記念館』館長の川村晴道さんと副館長の久恵さんから、北海道留萌市出身で伊那市在住の三浦結さんを聞き手に「アイヌ民族技師・川村カネトの生涯と伊那谷」というタイトルのお話を聞く企画が行われました。

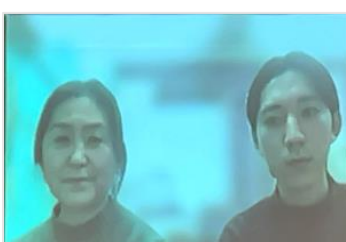
カネトはアイヌ民族として生まれ、差別を受けて育ち、働きながら測量の勉強に励み測量技手になりました。優秀な技術を持つカネトに、日本人ができない天竜峡谷の断崖絶壁に計画された三信鉄道（現飯田線）の測量依頼が来ました。カネトは測量をやり遂げ、現場監督として残りましたが、命がなくなるようなひどい仕打ちを受



川村カネトと見られる写真
(提供:泰阜村教育委員会)
「あけぼの」6訂版P52より



原画は、合唱劇「カネト」を歌う合唱団
副団長の山下恵子さんによる。
「あけぼの」高学年6訂版 P91より



館長の川村晴道さんと副館長の
久恵さん(オンライン)



聞き手の三浦さん。講演後には、
アイヌ模様作りの体験を指導して
いただきました。

けました。しかし、次第に周囲の信頼を得て、工事を完成させます。28年後の1960年、カ子トは飯田線の関係者や町村から招待されて豊橋から天竜峡を北上し、数々の歓迎を受けながら、飯田中央公民館や駒ヶ根市公民館での講演も行いました。（※詳しい話は、市内の小中学校で使用している教材「あけぼの」にも載っています。）

晴道さんと久恵さんからは、カ子トさんの人柄やアイヌ民族への差別の実態、記念館の様子や今後の活動について聞きました。衝撃を受けたのは、つい先頃アイヌ民族であることが分かる旭川の古い戸籍がインターネットオークションで売買されたというお話でした。同和問題と全く同じ状況が、アイヌの人々にも起きていることに驚きました。最後に、久恵さんは、「カ子トさんを通して、北海道と長野県は、距離は遠いけれど心は近い。」、晴道さんは「アイヌの本当のことを知ってほしい。」とそれぞれお話されました。この企画に参加して、飯田線とカ子トとのつながりを学んだことで、アイヌの人々のことが身近になり関心を高めることができました。

伊那北小学校 「炭焼き体験」 11/10 → 12/15

伊那北小学校では、「上牧里山づくり」の皆さんのお世話になって、様々な里山に関わる活動をしています。今回は、4年生の「炭焼き」を取材させていただきました。

11/10にコナラの木を窯に入れました。これが炭になるまでには、何段階もの丁寧な温度管理が必要で、「里山づくり」の皆さんが交代で様子を見ながら、約1ヶ月、炭のできあがりを待ちました。



【11/10 薪入れの日】
「上牧里山づくり」の上牧里山自然パークにある、宮の上炭焼き小屋



材木を窯に入れていきます。



竹や松ぼっくり、折り紙の鶴などを入れて、「花炭」作りに挑戦！



作業の合間に「やきいも」したよ！

12/15、炭を出す日になりました。窯から立派にでき上がった炭を児童の皆さんが次々と運び出してきました。缶の中に入れて一緒に焼いた竹や折り紙もきれいに「花炭」になっていました。また、この日は「伊那市ミドリナ委員会」や「地域おこし協力隊」の皆さんから、焚き火のやり方を教えていただきました。さらに、マシュマロを焼いて食べたり、里山自然パーク内にある「足湯」に入ったりして、楽しく過ごしました。

伊那北小学校4年生の皆さんは、自然と人の生活とのかかわりについて学んだり、自然の中での楽しみ方を体験したりする充実した活動をしていました。



【12/15 炭出しの日】
「上牧里山づくり」の皆さん



できた炭を出してきました！



たくさんできました！！



「花炭」もバッチリ！！！！



ミドリナ委員会と地域おこし協力隊の皆さんに、たき火のやり方を教えてもらい……



ファイヤースターターで着火の体験をして……



マシュマロも焼いて……



足湯にも入ったよ！